平成24年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年２月10日

上 場 会 社 名	武蔵野興業株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	9635	URL	http://www.musashino-k.co.jp
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	河野　義勝
問合せ先責任者	（役職名） 執行役員経理部長	（氏名）	山崎　雄司　　(TEL) 03-3352-1439
四半期報告書提出予定日	平成24年２月14日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無

四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成24年３月期第３四半期の連結業績（平成23年４月１日～平成23年12月31日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年３月期第３四半期	1,150	△6.9	186	―	183	―	172	―
23年３月期第３四半期	1,235	△16.1	△16	―	△25	―	△42	―

（注）包括利益 24年３月期第３四半期　350百万円（　―%）23年３月期第３四半期　△44百万円（　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年３月期第３四半期	16.48	―
23年３月期第３四半期	△4.10	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年３月期第３四半期	5,902	2,875	48.7	274.61
23年３月期	6,024	2,524	41.9	241.08

（参考）自己資本 24年３月期第３四半期　2,875百万円　23年３月期　2,524百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年３月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年３月期	―	0.00	―		
24年３月期(予想)				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．平成24年３月期の連結業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,475	△11.2	210	―	200	―	180	―	17.19

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

４．その他

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　　―社（社名）　　、除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年３月期３Ｑ	10,500,000株	23年３月期	10,500,000株
②　期末自己株式数	24年３月期３Ｑ	29,948株	23年３月期	28,565株
③　期中平均株式数（四半期累計）	24年３月期３Ｑ	10,470,404株	23年３月期３Ｑ	10,472,413株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……3
２．サマリー情報(その他)に関する事項 ……3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……3
（４）追加情報 ……3
３．四半期連結財務諸表 ……4
（１）四半期連結貸借対照表 ……4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……6
四半期連結損益計算書 ……6
四半期連結包括利益計算書 ……7
（３）継続企業の前提に関する注記 ……8
（４）セグメント情報等 ……8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……10
（６）重要な後発事象 ……10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間における我が国の経済は、平成23年３月に発生した東日本大震災の影響に加え、欧州をはじめとした海外経済の信用不安や円高により、景気回復への動きが依然として鈍い状況のまま推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループの当第３四半期連結累計期間の業績につきましては、映画興行事業部門は、良質な作品を多く取り揃えたものの集客に結びつかず、低調な営業成績となりました。一方、不動産事業部門におきましては、賃貸部門においては大きな変化はなかったものの、平成23年９月に、不動産投資事業として取り組んでいた流動化不動産に対する匿名組合出資契約が終了し、留保されていた投資配当の一部分配が確定・分配されたため、前年同期に比べて増収となりました。また、自動車教習事業部門と商事事業部門につきましては、概ね当初の見込通りに業績は推移いたしました。

以上のことから、売上高は１１億５千万円（前年同期比6.9%減）、営業利益は１億８千６百万円（前年同期は１千６百万円の営業損失）、経常利益は１億８千３百万円（前年同期は２千５百万円の経常損失）、四半期純利益は１億７千２百万円（前年同期は４千２百万円の四半期純損失）となりました。

当第３四半期連結累計期間のセグメント情報ごとの業績の状況は以下の通りであります。

（「生産、受注及び販売の状況」については、当社は映画興行や不動産賃貸業を中心に業態を形成しており、受注・販売形式の営業活動は行っておりません。販売の状況については、下記に示したセグメント情報ごとの業績の状況をご参照ください。）

（映画興行事業部門）

新宿武蔵野館で上映した「５０／５０」や「サラの鍵」等、良質な作品を多くラインナップしたものの集客に結びつかず、また甲府武蔵野シネマ・ファイブ休館に係る売上減と休館後の施設維持費が発生しているため、部門全体の売上高は２億２千１百万円（前年同期比18.8%減）、セグメント損失は９百万円（前年同期は３千万円のセグメント損失）となりました。

（スポーツ・レジャー事業部門）

閉鎖したコナミスポーツクラブ自由が丘の残務諸費用の発生があり、セグメント損失は９百万円（前年同期は３千万円のセグメント損失）となりました。 なお、売上高の計上はありませんでした（前年同期は１億６千４百万円の売上高）。

（不動産事業部門）

賃貸部門の入居状況においては大きな変化はありませんでしたが、平成23年９月及び10月に留保されていた流動化不動産に対する投資配当の一部分配が確定したため、部門全体の売上高は４億９千７百万円（前年同期比39.3%増）、セグメント利益は３億６千万円（前年同期比48.6%増）となりました。

（自動車教習事業部門）

高校・大学生の卒業シーズンを控え、普通自動車特別割引や、教育訓練給付制度を利用した大型特殊自動車・けん引自動車免許取得のＰＲを行い、新規教習生の獲得に力を入れてまいりました。その結果、部門全体の売上高は２億４千９百万円（前年同期比0.4%減）、セグメント利益は２千５百万円（前年同期比20.8%増）となりました。

（商事事業部門）

住宅関連資材の売上は、震災の影響により縮小傾向にあったものの、その後持ち直しの兆しを見せ始めており、また、東京都新宿区のタピオカ入りソフトドリンク販売店は、若い女性を中心とした顧客からの安定的な支持を受け、売れ行きは堅調に推移いたしました。その結果、部門全体の売上高は１億６千１百万円（前年同期比2.9%減）、セグメント利益は１千７百万円（前年同期比1.0%減）となりました。

（その他）

主としてマクミラン・アリスの版権料収入や自販機手数料等でありますが、全体として売上高は１千９百万円（前年同期比14.9%減）、セグメント利益は７百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、有形固定資産の減価償却や除却、土地の売却、減損損失の計上などから、前連結会計年度末に比べ１億２千２百万円減の59億２百万円となりました。

負債合計は、有利子負債の返済を進めたことや、法定実効税率の変更による「再評価に係る繰延税金負債」の減少があり、前連結会計年度末に比べ４億７千３百万円減の30億２千７百万円となりました。

純資産合計は、四半期純利益の計上に加え、法定実効税率の変更による土地再評価差額金の増加により、前連結会計年度末に比べ３億５千万円増の28億７千５百万円となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年２月７日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」に掲載した数値を記載しております。映画興行事業において、当第３四半期連結会計期間以降、期待された上映作品の集客が伸びず、営業計画に織り込んだ数値に届かないことが予想されることに加え、一部遊休不動産の有効活用施策の実施に時間を要していることもあり、業績予想の修正を行うに至りました。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（４）追加情報

平成23年12月２日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が公布され、平成24年４月１日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これにより、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率が変更されたことに伴い、土地再評価差額金が178,481千円増加し、再評価に係る繰延税金負債が178,481千円減少しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	471,564	926,262
受取手形及び売掛金	46,503	44,327
たな卸資産	1,278	1,034
その他	59,142	84,144
貸倒引当金	△2,161	△1,810
流動資産合計	576,328	1,053,959
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	666,119	610,146
機械装置及び運搬具（純額）	9,881	7,444
工具、器具及び備品（純額）	35,172	31,178
土地	3,808,775	3,772,447
有形固定資産合計	4,519,948	4,421,216
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
リース資産	6,657	5,230
その他	10,903	13,969
無形固定資産合計	84,820	86,459
投資その他の資産		
投資有価証券	688,919	285,259
長期貸付金	625,816	416,436
敷金及び保証金	26,860	25,540
その他	63,477	56,784
貸倒引当金	△561,360	△443,211
投資その他の資産合計	843,712	340,808
固定資産合計	5,448,480	4,848,484
資産合計	6,024,808	5,902,443

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,875	42,350
短期借入金	424,360	372,060
未払法人税等	5,956	3,054
賞与引当金	11,118	12,884
その他	178,060	125,192
流動負債合計	685,370	555,541
固定負債		
長期借入金	642,483	488,626
退職給付引当金	162,277	147,414
役員退職慰労引当金	18,648	18,648
長期預り敷金	544,767	549,997
再評価に係る繰延税金負債	1,438,098	1,259,617
その他	8,743	7,385
固定負債合計	2,815,018	2,471,689
負債合計	3,500,389	3,027,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	△559,418	△394,467
自己株式	△7,088	△7,258
株主資本合計	437,993	602,774
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,202	△2,224
土地再評価差額金	2,088,628	2,274,663
その他の包括利益累計額合計	2,086,426	2,272,438
純資産合計	2,524,419	2,875,212
負債純資産合計	6,024,808	5,902,443

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）
売上高	1,235,117	1,150,288
売上原価	711,507	490,376
売上総利益	523,610	659,912
販売費及び一般管理費	539,997	473,154
営業利益又は営業損失（△）	△16,387	186,758
営業外収益		
受取利息及び配当金	6,403	2,726
持分法による投資利益	10,636	14,380
その他	4,782	1,960
営業外収益合計	21,821	19,068
営業外費用		
支払利息	30,996	22,080
その他	17	569
営業外費用合計	31,013	22,650
経常利益又は経常損失（△）	△25,579	183,175
特別利益		
固定資産売却益	1,546	11,710
貸倒引当金戻入額	17,146	－
受取保険金	2,937	－
その他	184	－
特別利益合計	21,813	11,710
特別損失		
固定資産売却損	－	10,973
固定資産除却損	3,799	4,387
減損損失	9,029	5,229
特別退職金	5,000	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,901	－
前期損益修正損	12,439	－
その他	3,021	840
特別損失合計	36,189	21,430
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△39,955	173,456
法人税、住民税及び事業税	2,977	952
法人税等合計	2,977	952
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△42,932	172,503
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△42,932	172,503

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△42,932	172,503
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,328	△21
土地再評価差額金	－	178,481
その他の包括利益合計	△1,328	178,459
四半期包括利益	△44,260	350,962
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△44,260	350,962

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

（セグメント情報）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間(自　平成22年４月１日　至　平成22年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他	合計
	映画興行事業	スポーツ・レジャー事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	273,296	164,890	357,375	250,164	166,305	1,212,030	23,087	1,235,117
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	53,812	―	―	53,812	―	53,812
計	273,296	164,890	411,187	250,164	166,305	1,265,842	23,087	1,288,929
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△30,707	△30,951	242,466	21,301	17,995	220,104	10,403	230,507

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、版権事業その他であります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	220,104
「その他」の区分の利益	10,403
セグメント間取引消去	△905
全社費用(注)	△245,989
四半期連結損益計算書の営業損失	16,387

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他	合計
	映画興行事業	スポーツ・レジャー事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	221,967	―	497,936	249,214	161,529	1,130,648	19,640	1,150,288
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	52,812	―	―	52,812	―	52,812
計	221,967	―	550,749	249,214	161,529	1,183,460	19,640	1,203,100
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△9,081	△9,869	360,287	25,737	17,821	384,895	7,790	392,686

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、版権事業その他であります。

２．「スポーツ・レジャー事業」のセグメント損失は、平成23年３月31日に閉鎖した「コナミスポーツクラブ自由が丘」に係る残務諸費用であります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	384,895
「その他」の区分の利益	7,790
セグメント間取引消去	879
全社費用(注)	△206,807
四半期連結損益計算書の営業利益	186,758

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

４．報告セグメントごとの資産に関する事項

当第３四半期連結会計期間において、「映画興行事業」に区分していた「甲府武蔵野シネマ・ファイブ」（平成23年３月31日閉鎖）の残務が平成23年９月30日までに終了し、当該閉鎖事業所が所在していた施設の賃貸若しくは売却に向けて営業活動を開始したことに伴い、当該閉鎖事業所に係る資産85,658千円を「映画興行事業」より「不動産事業」へ振替を行っております。なお、この変更に伴い、従来の区分によった場合と比べ、「映画興行事業」の売上高は180千円減少、営業損失は4,710千円減少し、「不動産事業」の売上高は180千円増加、営業利益は4,710千円減少しております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

該当事項はありません。